

## ある会話

幼稚園の先生「幼稚園の生活にはリズムがあるんです。おはなしをしたら、次には紙芝居をして、それからピアノに合わせで遊戯をするというように、子どもがあきないように動と静をうまく組み合わせるリズムをつくるのがたいせつなんです」

「そうでしょうか。そういうのをリズムと言うのでしょうか。子どもが数人集まっ

ていて、一人はつみきを手にとり、つみきで何かをつくりはじめ、一人は黒板にえをかきはじめ、もう一人は、あちこち歩きまわり、いろいろのものをさわって歩いているといふとき、それぞれの子どもの生活にはリズムがあるのでないでしょうか」

「わたしもそう思います。ちょっと見るとリズムがないみたいだけど、一人一人の精神のリズムができていかないと、全体の

リズムはできないのではありませんか。そうして、違ったリズムが一しょになって、

全体が一つに響き合うんです。途中の時間をちょっとだけ見ると、ばらばらな印象を与えたり、リズムがないみたいに見えることもあるでしょう。でも、リズムというのは時間をかけてつくられていくものだし、精神のリズムはとくに、時間をかけて見なければわかりませんね。保育者と子ども自身は、もっと敏感にお互いにリズムを感じとれるんだけれど、外からは見てわかってくれる人は少ないですね」

その会話をきいていた中学生「そうだよ学校っていうのはリズムがないんだよ。太鼓を棒で叩くようなものなんだ。太鼓の上に何枚も紙をおいておくと、みんな一斉にとび上がるんだ。中には落ちるものもあるしね」……………

## 幼児の教育 第六十九卷第十一号

十一月号 © 定価八〇円

昭和四十五年十月二十五日印刷  
昭和四十五年十一月一日発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いたします